大和物語（沖つ白浪）　＊＊＊

次の文章（A話）を読んで、後の問いに答えなさい。［50点］

A

昔、大和の国葛城の郡に住む男・女ありけり。この女、顔かたちいと清らなり。年ごろ思ひかはして住むに、この女、いとわろくなりにければ、思ひわづらひて、限りなく思ひながら、妻をまうけてけり。この今の妻は、富みたる女になむありける。ことに思はねど、行けばいみじう(ア)いたはりし、身の装束もいと清らにせさせけり。

かくにぎははしき所に(イ)ならひて、来たれば、この女、いとわろげにてゐて、かくほかにありけど、さらに妬げにも見えずなどあれば、いとあはれと思ひけり。心地には、限りなく妬く心憂く思ふを、忍ぶるになむありける。とどまりなむと思ふ夜も、なほ「往ね。」と言ひければ、わがかくありきするを妬まで、異わざするにやあらむ、①さるわざせずは恨むることもありなむなど、心のうちに思ひけり。

さて、出でて行くと見えて、[a]前栽の中に隠れて、男や来ると見れば、端に出でゐて、月のいといみじうおもしろきに、頭かいけづりなどしてをり。夜更るまで寝ず、いといたううち嘆きてながめければ、人待つなめりと見るに、使ふ人の前なりける(ウ)に言ひける。

風吹けば沖つ白浪[　　][b]夜半にや君がひとり越ゆらむ

と詠みければ、わがうへを思ふなりけりと(エ)思ふに、いとかなしう(A)なりぬ。この今の妻の家は、竜田山越えて行く道になむありける。

かくて、なほ見をりければ、この女、うち泣きて伏して、②金椀に水を入れて、胸になむ据ゑたりける。あやし、いかにするにかあらむとて、なほ見る。されば、この水、熱湯にたぎりぬれば、湯ふてつ。また水を入る。見るにいとかなしくて、走り出でて、「いかなる心地し給へば、かくはし給ふぞ。」と言ひて、かき抱きてなむ寝にける。かくて、ほかへもさらに行かで、つとゐにけり。

かくて、月日多く経て思ひやるやう、(B)つれなき顔なれど、女の思ふことといみじき(C)ことなりけるを、かく行かぬをいかに(オ)思ふらむと、思ひ出でて、ありし女のがり行きたりけり。久しく行かざりければ、つつましくて立てりけり。さて、垣間めば、我にはよくて見えしかど、いとあやしきさまなる衣を着て、大櫛を面櫛に挿しかけてをり、手づから飯盛りをりけり。いといみじと思ひて、来にけるままに、行かずなりにけり。この男は王なりけり。

問一　傍線部ａ・ｂの漢字の読み方を現代仮名遣いで答えなさい。

ａ　前栽　　ｂ　夜半

問二　波線部Ａ～Ｃの意味として最も適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

Ａ　１　みじめに　　２　いとしく　　３　かわいそうに　　４　なつかしく
Ｂ　１　平然とした　　２　薄情な　　３　無愛想な　　４　冷淡な
Ｃ　１　すばらしい　　２　滑稽だ　　３　あさましい　　４　気の毒に

問三　傍線部**ア・イ・ウ・エ・オ**の主語は、それぞれの組み合わせとして、次の１～６から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

１　**ア**　男　　**イ**　もとの妻　　**ウ**　今の妻　　**エ**　もとの妻　　**オ**　今の妻
２　**ア**　もとの妻　　**イ**　男　　**ウ**　今の妻　　**エ**　男　　**オ**　もとの妻
３　**ア**　今の妻　　**イ**　もとの妻　　**ウ**　今の妻　　**エ**　男　　**オ**　今の妻
４　**ア**　男　　**イ**　今の妻　　**ウ**　男　　**エ**　もとの妻　　**オ**　もとの妻
５　**ア**　もとの妻　　**イ**　今の妻　　**ウ**　男　　**エ**　今の妻　　**オ**　もとの妻
６　**ア**　今の妻　　**イ**　男　　**ウ**　もとの妻　　**エ**　男　　**オ**　今の妻

問四　傍線部①の現代語訳として適切なものを次の**ア**～**エ**の中から選び、記号で答えなさい。

ア　ほかの男とつきあっていないので、きっと私のことを恨めしく思う気持ちもあるのだろう。
イ　ほかの男とつきあっていないならば、私のことを恨めしく思うこともあるに違いない。
ウ　私のことを心から慕っていないから、さぞ私のことを恨みがましく思うこともあるはずだ。
エ　私のことを心から慕っていないのなら、私のことを恨みがましく思うこともあるのだろう。

問五　本文中の和歌には、序詞の技法が使われている。空欄に入れるのに最も適切な山の名前を次の**ア**～**エ**の中から選び、記号で答えなさい。

ア　うねび山　　**イ**　たつた山　　**ウ**　いもせ山　　**エ**　たむけ山　　**オ**　みかさ山

問六　もとの妻が傍線部②のような行動をとった理由を十五字程度で答えなさい。

問七　次の中から本文の記述に合致するものを二つ選んで記号で答えなさい。ただし、三つ以上答えた場合には無得点になります。

ア　男は、もとの妻に飽きて別の若い女を妻としたが、もとの妻の生活の貧しさは見捨てておけなかった。

イ　男は、もとの妻をこよなく愛していたが、経済的な理由から、別の女を妻にもたざるを得なかった。

ウ　もとの妻は、男を今の妻のもとに送り出してはいたが、嫉妬の気持ちは抑ええることができなかった。

エ　もとの妻は、男の心変わりを恨む気持ちを、それとなく男に伝えたい思いから一首の和歌を詠んだ。

オ　今の妻は、経済的には湯安宅だったが、ねたみ深く性格も下品だったため、男はもとの妻をなつかしんだ。

カ　今の妻は、男に気に入られたいために裕福な様をよそおっていたが、実は裕福ではなかった。

問八　次の文章は、『伊勢物語』二十三段「筒井筒」の話（B話）である。本文の『大和物語』百四十九段「沖つ白波」（A話）の話とどのような点が違うか。主な点を三つあげなさい。その際、A話とB話を比較した形で書くこと。

B

昔、田舎渡らひしける人の子ども、井のもとに出でて遊びけるを、大人になりにければ、男も女も恥ぢかはしてありけれど、男は、この女をこそ得めと思ふ。女は、この男をと思ひつつ、親のあはすれども、開かでなむありける。さて、この隣の男のもとより、かくなむ。

筒井筒井筒にかけしまろが丈過ぎにけらしな妹見ざるまに

女、返し、

くらべこし振り分け髪も肩過ぎぬ君ならずしてたれか上ぐべき

など言ひ言ひて、つひに本意のごとくあひにけり。

さて、年ごろ経るほどに、女、親なく、頼りなくなるままに、もろともに言ふかひなくてあらむやはとて、河内の国高安の郡に、行き通ふ所出で来にけり。さりけれど、このもとの女、悪しと思へる気色もなくて、出だしやりければ、男、異心ありてかかるにやあらむと思ひ疑ひて、前栽の中に隠れゐて、河内へ往ぬる顔にて見れば、この女、いとよう化粧じて、うちながめて、

風吹けば沖つ白浪たつた山夜半にや君がひとり越ゆらむ

と詠みけるを聞きて、限りなくかなしと思ひて、河内へも行かずなりにけり。

まれまれ、かの高安に来てみれば、初めこそ心にくくもつくりけれ、今はうちとけて、手づから飯匙取りて、笥子の器物に盛りけるを見て、心憂がりて、行かずなりにけり。さりければ、かの女、大和の方を見やりて、

君があたり見つつををらむ生駒山雲な隠しそ雨は降るとも

と言ひて見出だすに、からうじて大和人、「来む。」と言へり。喜びて待つに、たびたび過ぎぬれば、

君来むと言ひし夜ごとに過ぎぬれば頼まぬものの恋ひつつぞ経る

と言ひけれど、男、住まずなりにけり。

問 八			問 七	問 六	問 五	問 四	問 三	問 二	問 一
								A	a
								B	
								C	
									b
				15					
				20					

学 年
組
番 号
氏 名
得 点

大和物語（沖つ白浪）　＊＊＊

〔出題の意図と留意点〕

出題の意図と留意点　語句の読みや、人物関係を問う問題、内容理解、読み比べに関する設問など、古典の幅広い力を問う。

☆解答例と配点

問一　ａ　せんざい　ｂ　よわ　〈２点×３〉
問二　Ａ　２　Ｂ　１　Ｃ　３　〈３点×３〉
問三　６　〈５点〉
問四　イ　〈４点〉
問五　イ　〈３点〉
問六　嫉妬で熱くなった体を冷やすため。　〈６点〉
問七　イ・ウ　〈４点×２〉
問八　解答例

・Ｂ話には、今の妻の歌があるが、Ａ話にはない。
・Ａ話には、もとの女が金椀に水を入れて自分の嫉妬の炎を冷やした場面があるが、Ｂ話にはなく、もとの女の嫉妬心が描かれていない。
・Ｂ話では、最後に男が「大王」であることが記されていて書いていて内容が合っていれば、採点者の裁量で○にする。
〈３点×３〉

〔留意点〕これ以外にも、さまざまな解答がありうる。比較

計50点